

# 女性合格率が低い大学は？

—男女別の入学試験合格率—

(単位：%)

学校名	女性志願者の内の女性合格率		男性志願者の内の男性合格率		合格率差(女性-男性)	
	2017年	18	17	18	17	18
国立大学						
旭川医科大学	7.5	5.9	6.8	7.3	0.8	▲1.3
北海道大学	33.3	18.8	29.4	33.3	3.9	▲14.6
東北大学	27.0	22.9	30.5	28.6	▲3.5	▲5.7
山形大学	16.9	18.2	18.1	18.7	▲1.2	▲0.5
千葉大学	15.3	14.2	16.4	19.3	▲1.2	▲5.1
東京医科歯科大学	18.8	19.5	20.3	20.1	▲1.5	▲0.5
新潟大学	23.6	—	22.6	—	1.0	—
金沢大学	21.2	25.3	35.0	23.8	▲13.9	1.5
福井大学	16.3	14.0	11.7	11.0	4.6	2.9
浜松医科大学	17.8	18.2	14.1	19.2	3.6	▲1.0
名古屋大学	25.3	22.0	35.8	32.0	▲10.5	▲10.1
三重大学	11.6	10.0	17.0	17.6	▲5.4	▲7.6
滋賀医科大学	14.5	12.7	15.3	19.1	▲0.8	▲6.4
京都大学	26.6	27.8	35.2	33.0	▲8.6	▲5.2
大阪大学	55.3	38.6	48.8	40.5	6.5	▲1.9
鳥取大学	11.6	9.2	15.5	9.8	▲3.9	▲0.6
島根大学	21.4	22.4	15.3	13.3	6.1	9.1
岡山大学	20.9	34.2	31.3	35.3	▲10.4	▲1.1
広島大学	9.5	—	12.3	—	▲2.8	—
山口大学	6.6	10.3	10.1	15.8	▲3.6	▲5.5
徳島大学	28.3	31.8	27.3	38.5	1.0	▲6.7
香川大学	7.5	12.7	10.0	13.6	▲2.5	▲0.9
愛媛大学	7.3	15.2	8.4	16.3	▲1.0	▲1.1
九州大学	23.5	28.8	35.8	36.2	▲12.3	▲7.4
佐賀大学	8.3	9.2	16.3	11.7	▲8.0	▲2.5
熊本大学	13.8	23.5	19.8	33.0	▲6.0	▲9.6
宮崎大学	—	11.7	—	11.5	—	0.2
鹿児島大学	19.7	14.9	20.1	15.9	▲0.4	▲1.0
琉球大学	13.9	12.2	12.2	11.6	1.7	0.5

(注) 合格率は「合格者数÷志願者数」で算出。「—」は不明、「×」はデータなし。弘前、秋田、筑波、群馬、東京、富山、山梨、信州、岐阜、神戸、高知、長崎、大分、福島県立医科、名古屋市立、順天堂、帝京、東京慈恵会医科、東海は不明。▲はマイナス。数値は小数第2位で四捨五入しているため、合わないところがある。(出所) 大学通信

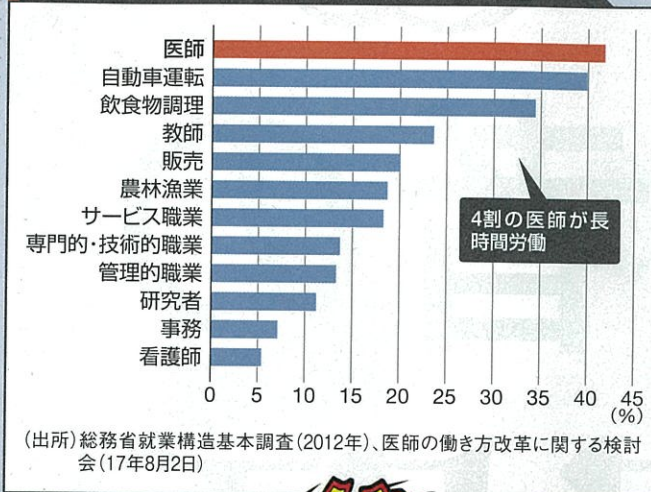
学校名	女性志願者の内の女性合格率		男性志願者の内の男性合格率		合格率差(女性-男性)	
	2017年	18	17	18	17	18
公立大学						
札幌医科大学	14.0	18.5	23.1	21.7	▲9.1	▲3.2
横浜市立大学	24.8	25.5	30.5	36.1	▲5.7	▲10.6
京都府立医科大学	28.0	28.1	36.1	38.0	▲8.0	▲9.9
大阪市立大学	21.4	20.2	30.6	28.7	▲9.2	▲8.5
奈良県立医科大学	3.9	5.8	5.1	7.6	▲1.2	▲1.8
和歌山県立医科大学	26.9	36.1	20.2	35.7	6.6	0.4
岩手医科大学	4.1	4.6	5.7	6.0	▲1.5	▲1.4
私立大学						
東北医科薬科大学	9.0	9.5	12.6	13.3	▲3.6	▲3.8
自治医科大学	4.7	6.4	6.6	5.2	▲1.9	1.1
独協医科大学	6.9	6.5	5.2	7.0	1.7	▲0.5
埼玉医科大学	2.7	—	2.2	—	0.4	—
国際医療福祉大学	6.6	8.7	8.7	10.3	▲2.1	▲1.6
杏林大学	4.0	4.8	3.9	4.1	0.0	0.7
慶応義塾大学	8.8	8.8	12.3	12.9	▲3.5	▲4.1
昭和大学	4.1	4.4	5.9	6.5	▲1.9	▲2.1
東京医科大学	4.6	2.2	4.1	7.7	0.5	▲5.4
東京女子医科大学	11.8	10.7	×	×	×	×
東邦大学	4.3	4.0	3.6	3.1	0.7	0.9
日本医科大学	3.0	2.8	3.8	3.3	▲0.8	▲0.5
日本大学	3.6	2.4	5.3	5.1	▲1.7	▲2.8
北里大学	6.5	6.9	6.9	7.0	▲0.4	▲0.2
聖マリアンナ医科大学	5.2	2.1	4.6	5.1	0.6	▲3.0
金沢医科大学	4.3	3.1	2.8	2.2	1.5	1.0
愛知医科大学	11.1	8.3	8.1	10.1	3.1	▲1.8
藤田保健衛生大学	12.8	8.2	11.6	9.7	1.2	▲1.4
大阪医科大学	5.0	7.0	7.1	7.7	▲2.1	▲0.7
関西医科大学	5.9	5.7	4.8	5.0	1.1	0.7
近畿大学	4.4	5.0	6.4	5.3	▲2.0	▲0.3
兵庫医科大学	8.2	8.2	7.7	7.6	0.5	0.6
川崎医科大学	—	5.8	—	6.1	—	▲0.3
久留米大学	8.5	6.8	9.1	8.5	▲0.6	▲1.7
産業医科大学	5.5	4.7	5.9	5.3	▲0.5	▲0.7
福岡大学	6.9	5.5	6.8	6.1	0.2	▲0.5
その他						
防衛医科大学校	4.6	3.3	5.1	5.9	▲0.5	▲2.6

# 「一生安泰」は本当か 少子化、AIで変わる 医学部、医者への未来



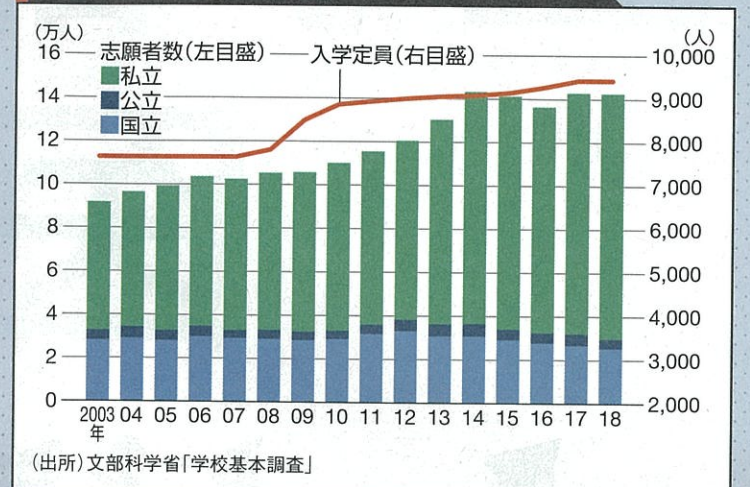
## 医師は長時間労働の割合が高い

—1週間の労働時間が60時間を超える雇用者の割合—



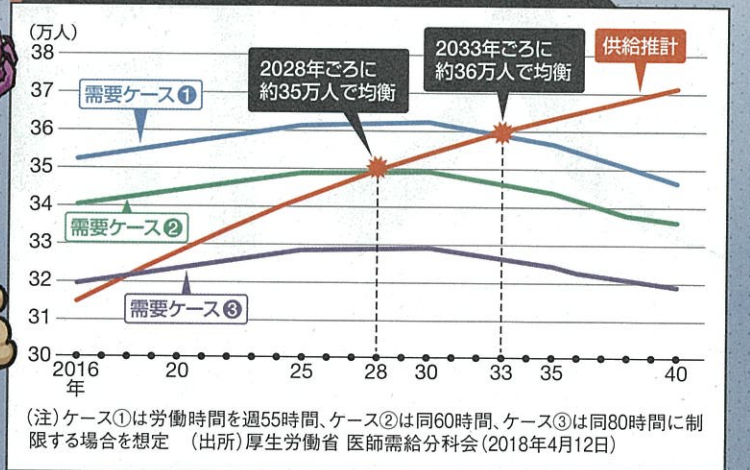
## 志願者数は増えている

—医学部入学定員と志願者数—



## 2028~33年を境に医師余りに?

—将来の医師需給推計—



ただ念願の医師になれば誰もが安泰というわけではない。右(左)上図のように、医師の長時間労働は他の職業と比べて顕著。それが女性医師の仕事と子育ての両立を阻んでいる。過酷な労働環境が医療事故を招くケースもあり、働き方改革は待ったなしだ。一方でポリアルームゾーンである団塊世代がいなくなれば、医療ニーズはむしろ減る。その結果、厚生労働省の長期予測では、20〜30年代に医師余りになるとの見通しもある(右図右下)。

超高齢社会に突入すれば、従来の治療だけでなく、予防や終末期ケアが医師に求められる。既存の病院はその変化にどう対応するか。また医師の仕事の一部がAI(人工知能)などテクノロジーに代替されるとの予測もある。

受験生の熱視線を浴びる医師のキャリアだが、その実態は問題が山積み。次ページ以降では医師をめぐる問題の全貌を検証する。

入 学試験のあり方をめぐって、医学部が揺れている。

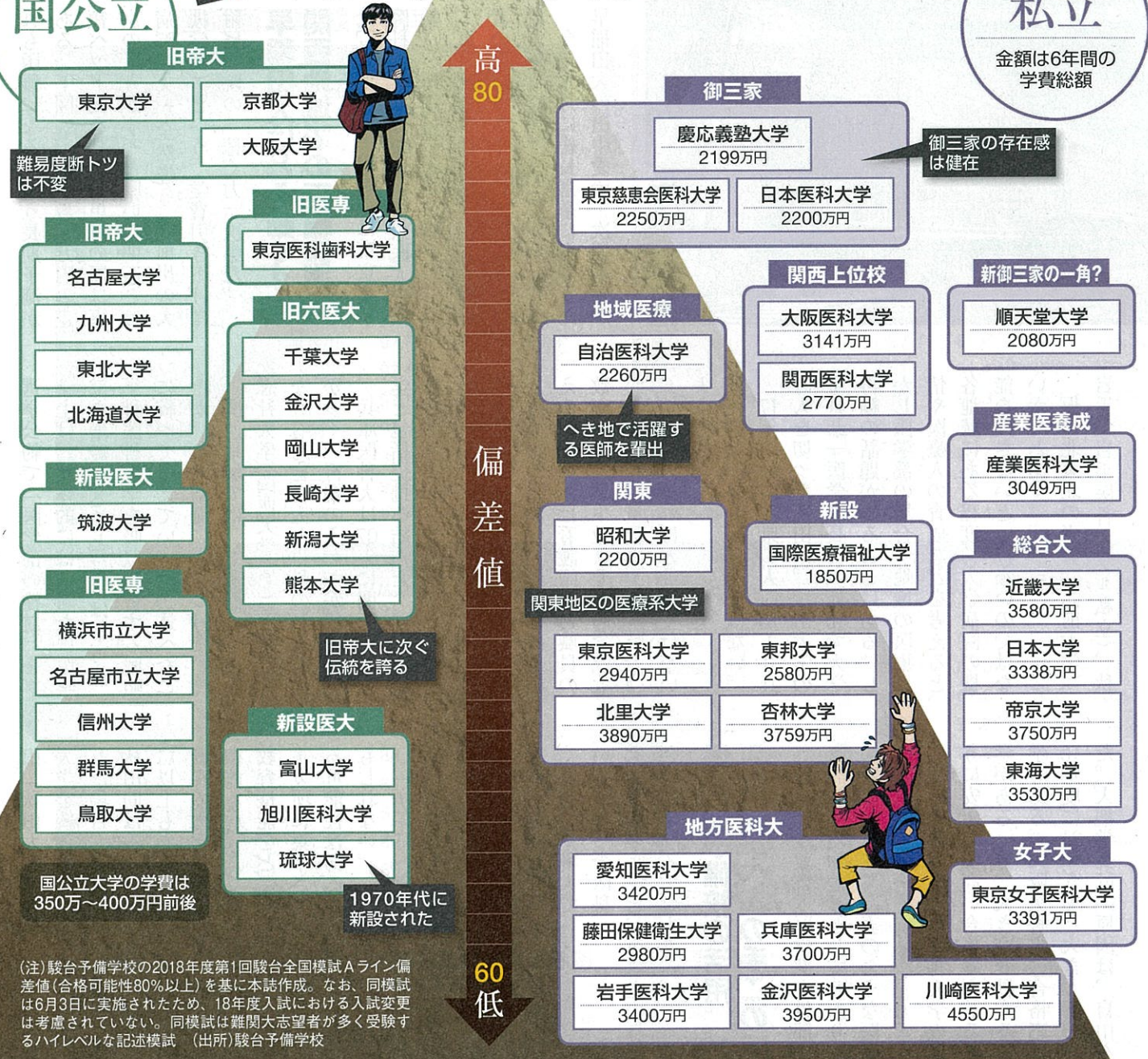
東京医科大学が女子受験生や多浪人生の得点を不当に低く加工していた事件は、世の中に大きな衝撃を与えた。8月に記者会見した同大幹部は「この話を聞いたとき驚愕した」と述べた。他大学は「一様に「事件の影響はない」とするが、文部科学省は医学部の入試実態について、各大学にヒアリング中。結果次第では2019年以降の入試に影響することもありうる。

大学ごとに合格者数を志願者数で割った合格率を男女別に比較してみると、東京医科大学よりも男女の合格率の差が大きい大学が複数存在することがわかる(左表)。

ただ、各大学とも、患者とコミュニケーションが取れるのか、勉強し続けられる高いモチベーションを持つなど、医師の「適性」を見るべく入試に工夫を凝らす。「受験生を(性差などで)差別はしないが、(適性を見る) 評価はする」(私立大幹部)との声もある。

男女比で入試の適正さを判断するほど評価は単純ではなさそうだ。医学部受験界からは、「いくらおカネをかけてもいいから、子どもを医学部へと望む人がいると、それに付け込む人が必ず出る」(医学部受験予備校)との声も上

# 最新版 大学医学部の勢力図



## Part 1

### 東京医大事件はどう影響?

# 医学部人気の光と影

東京医大事件などまるでなかったかのように、医学部人気は健在だ。しかし、将来の少子化をにらみ、医学部・医科大の生き残り競争は始まっている。

## 少子化時代に生き残り懸け 学費引き下げ、入試改革へ

全国82医学部・医大の経営戦略

「東 京医科大学が採択されたのを見て、よく通ったな」と不思議に思っていた。ある私立大学の幹部は、東京医大事件について、そう振り返る。汚職の舞台となった文部科学省の私立大学研究ブランディング事業(研究活動を支援する補助金を交付)に採択されたのは、関東地域では総合大学が多かったからだ。しかし、受験生や保護者の医学部熱は、東京医大事件などどこ吹く風だ。7月に都内で開催された医学部受験セミナー。会場は親子連れや高校生であふれている。私立大で最も学費の安い国際医療福祉大学(千葉県成田市)は「8月の2日間で2400人の枠はすぐにいっぱいになった」とうれし悲鳴を上げる。

ただ、さすがの医学部人気にも、少しずつ少子化の影が差し始めて

いる。足元の18歳人口は120万人前後で推移しているが、2020年代以降、再び減り始める。医学部受験予備校大手・富士学院の坂本友寛学院長は「今年に入り、生徒数が減って医学部専門予備校の破綻がはじまっている。昨年あたりから受講料のダンピングも起きている」と表情を曇らせる。

**学費下げ競争が勃発 900万円近い下げも**

「今年、学費を大幅に下げて偏差値がだいぶ上がった。受験生の雰囲気も随分と変わった」私立御三家の一角、日本医科大学(東京都文京区)の弦間昭彦学長はほほ笑む。同大は6年間で計2770万円だった学費を18年度から2200万円にした。

2000万円台が増えたとはいえず、私立の医学部に6年間通うに

は平均3000万円超かかる。最高の川崎医科大学(岡山県倉敷市)は4550万円、最低の国際医療福祉大でも1850万円だ。学費引き下げ競争に火をつけたのは、順天堂大学(東京都文京区)。08年に学費を880万円も引き下げ、2090万円にした。その後、昭和大学(東京都品川区)などが追随した。

順天堂大の新井一学長は「学費引き下げで、偏差値は確かに上昇したが、学生の質はそれほど変わっていない。最近の受験生受け入れでは多様性をいちばん重視している。日本語能力試験でN1(5段階で最難関)など一定の条件をクリアしていることが必須だが、外国人も積極的に受け入れている」と語る。

思惑が少し外れた大学もある。東邦大学(東京都大田区)は13

年に3180万円から2580万円へ大幅に引き下げた。高松研学長は「学力レベルの高い受験生が増え、偏差値は上がったが、他大との併願受験が多く、最終的に入学した合格者は少なかった」と話す。学費引き下げは序列を変えずの特効薬ではないようだ。

一方、関西地区の私立大の動きは比較的少ない。兵庫医科大学(兵庫県西宮市)の野口光一学長も「うちの学費は3700万円、私立大では5、6番目に高い。将来は下げたいが、差し当たっては下げない」と話す。同大は26年に新病院の開院を計画しており、今すぐ学費を下げられるほどの財務的な余裕がないからだ。

大阪医科大学(大阪府高槻市)の大槻勝紀学長は「学長としていちばんやりたいのは学費を下げる。当大出身者の子女が集まる大学と言われるのは困る。新しい血が入らないと改革もできない」と話す。私立大は、裕福な家庭や、子どもを医師にしたい医師家庭の受験生が多く、学生が一定層に固まりやすい。2親等内にOB・OGのいる人が受験できる「校友子女」試験枠(3人)を設ける日本大学医学部(東京都板橋区)のような例もある。

国立大附属病院は新たな借り入

# 国家試験合格率は二極化

## 【医師国家試験合格率】

順位	学校名	所在地	合格率(%)		
			2017年度	16	15
1	慶応義塾大	私 東京	100.0	97.3	97.2
2	昭和大	私 東京	100.0	92.3	95.6
3	自治医科大	私 栃木	99.2	100.0	99.1
4	奈良県立医科大	公 奈良	99.1	87.0	94.2
//	大阪医科大	私 大阪	99.1	81.5	95.9
6	杏林大	私 東京	98.4	90.8	90.5
7	岡山大	国 岡山	98.2	94.2	94.8
8	福島県立医科大	公 福島	98.0	94.5	99.0
9	横浜市立大	公 神奈川	97.6	97.7	98.9
//	順天堂大	私 東京	97.6	97.6	100.0
11	浜松医科大	国 静岡	97.5	95.8	96.6
12	東京慈恵会医科大	私 東京	97.4	94.8	100.0
13	名古屋大	国 愛知	97.3	94.5	94.4
//	京都大	国 京都	97.3	95.5	95.3
15	信州大	国 長野	97.2	96.9	92.2

## 【最低修業年限での卒業率】

順位	学校名	所在地	卒業率(%)		
			2017年度	16	15
1	東京大	国 東京	99.0	101.0	98.0
//	北海道大	国 北海道	99.0	89.2	84.1
3	順天堂大	私 東京	97.5	95.1	95.3
//	秋田大	国 秋田	97.5	90.8	89.7
5	名古屋大	国 愛知	94.5	96.3	92.5
6	三重大	国 三重	93.6	92.8	89.0
7	自治医科大	私 栃木	92.7	83.2	91.2
8	札幌医科大	公 北海道	91.8	91.8	84.5
9	山口大	国 山口	91.6	87.9	86.5
10	弘前大	国 青森	91.4	86.8	87.6
11	大阪大	国 大阪	91.3	86.1	87.3
12	慶応義塾大	私 東京	91.1	90.6	90.3
13	神戸大	国 兵庫	90.7	92.4	83.7
//	愛媛大	国 愛媛	90.7	88.8	95.3
15	関西医科大	私 大阪	90.4	68.4	85.0

順位	学校名	所在地	合格率(%)		
			2017年度	16	15
1	岩手医科大	私 岩手	81.7	82.2	85.8
2	久留米大	私 福岡	82.7	82.3	85.5
3	金沢医科大	私 石川	82.9	84.4	96.7
4	産業医科大	私 福岡	83.0	96.0	90.7
5	獨協医科大	私 栃木	83.6	82.9	91.3
6	聖マリアンナ医科大	私 神奈川	84.4	89.2	91.6
7	埼玉医科大	私 埼玉	87.6	79.8	94.7
8	京都府立医科大	公 京都	87.7	90.4	94.5
9	川崎医科大	私 岡山	89.0	92.5	94.2
10	宮崎大	国 宮崎	89.2	94.2	95.8
11	日本医科大	私 東京	89.5	85.3	96.8
//	香川大	国 香川	89.5	91.9	93.3
//	北海道大	国 北海道	89.5	88.3	91.6
14	長崎大	国 長崎	90.5	94.3	95.1
15	徳島大	国 徳島	90.7	94.7	95.9

順位	学校名	所在地	卒業率(%)		
			2017年度	16	15
1	帝京大	私 東京	57.9	48.3	63.2
2	川崎医科大	私 岡山	66.7	69.8	66.4
3	東海大	私 神奈川	67.0	82.3	72.5
4	山梨大	国 山梨	67.2	76.8	80.0
5	長崎大	国 長崎	70.7	82.8	78.3
6	近畿大	私 大阪	70.8	74.3	73.9
7	埼玉医科大	私 埼玉	71.8	75.6	77.3
8	聖マリアンナ医科大	私 神奈川	72.2	82.6	79.1
9	東邦大	私 東京	72.7	76.4	72.7
10	兵庫医科大	私 兵庫	73.0	74.3	71.8
11	藤田保健衛生大	私 愛知	73.6	89.1	72.7
12	福岡大	私 福岡	74.5	70.9	78.2
13	北里大	私 神奈川	74.8	71.1	82.1
//	日本大	私 東京	74.8	77.5	80.0
15	徳島大	国 徳島	76.3	78.1	75.0

(注)最低修業年限での卒業率は「最低修業年限での卒業生数÷当該年度の6年前の入学人数」(出所)文部科学省

に私立大は国家試験合格率の高さでしのぎを削り、入学段階から少しでもよい学生をとろうと、入試改革に動きだしている。兵庫医科大のように、センター試験利用の入試を取りやめる大学も登場した(19年度から)。「センター試験利用入試は受験テクニックで点数が取れる。数学Ⅲ・Cがなかったり、理科が平易などの欠点もある。来年の志願者は減るだろうが、自分たちの試験で学生を選びたい」(野口学長)と覚悟を決めている。各大学が入試に知恵を絞るのは、「ただ医学部に入りた子や何となく医学部に入っただけの子」(野口学長)では、一人前の医師になるまでの厳しい道のりに耐えられないからだ。その背景として医学部関係者が異口同音に口にするのは、「患者とコミュニケーションが取れない、医師としての適性のない、受験秀才が増えている」という医学部受験熱の影だ。何十倍もの志願倍率の医学部入試をくぐり抜けた後も、医学部の6年間は勉強漬けの毎日。卒業試験と国家試験の難関をようやくクリアしたかと思えば、卒業後には研修が待ち構える。21年1月からの大学入学共通テストにも入り、入試改革の模索が続いている。(本誌・山田徹也)



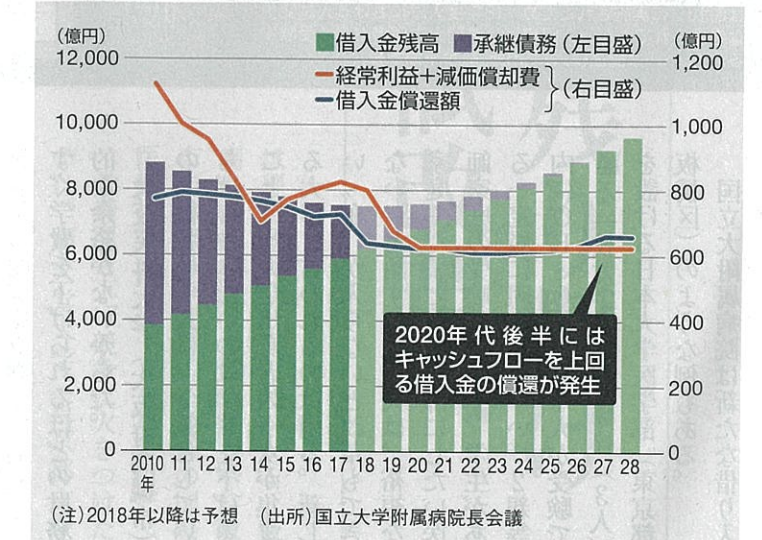
国立大学の附属病院経営は厳しさを増している(写真は千葉大学附属病院)

れも困難になるという長期予測がある(下図)。「1日数十万円の差額ベッド代を払える患者の層は東京のほうがかつと厚い。関西とは病院収入が全然違う」(前出の大槻学長)という。学費引き下げは附属病院の「稼ぐ力」次第だ。「早稲田大学の本命は東京女子医科大学ではなく、東京医大ではないか」東京医大事件の後、私立大関係者間でささやかれているうわさ話だ。今年6月に総長選挙に当選した早稲田大の田中愛治・次期総長が

選挙公約で「医学部の検討」をブチ上げ、具体的には「新たに医学部を増設することはほぼ不可能。単科医科大学を吸収合併する戦略に絞って考えていく」と述べたこととが、この観測に火をつけた。関西地域では、立命館大学や同志社大学、関西大学など、医学部のない有力総合大と単科の私立医大が多く、再編のうわさが絶えない。兵庫医科大は07年に関西学院大と包括提携を結んだ。同じ西宮市内にキャンパスがあるなど、距離的にも近いが、野口学長は「関西学院大とは包括提携以上の関係ではない」と話す。附属病院を抱える医科大は看護師など職員の数も多く、学生数こそ関西学院大の6倍近い。それほど簡単ではないようだ。

再編は国立大も例外ではない。17年について県の人口が100万人を切った秋田県。秋田大学の尾野恭一医学部長は「地元で大学再編の話題が出ることはある。しかし医学部の場合、地域の医療事情や医療人の育成などを考えると、各地域にある程度、大病院の機能を残さないといけないのではないか」と話す。仮に北東北の青森(弘前大学)、岩手(岩手医科大学)私立、秋

## 国立大学附属病院はいずれ新たな借り入れも困難に



田(秋田大)の各大学を統合するとした場合、青森(秋田間は100%)以上もあるため、既存の大病院の機能を残しつつ、教育機能をどこか1カ所に集中させる可能性はあるかもしれない。一方で、「他学部との調整もなく、医科大単科大はスピード感がある。今後も進化していく」(日本医科大の弦間学長)と、単科大の身軽さを追求する大学もある。

増える予備校の活用 入試改革への手この手 偏差値と並び、医学部を外部から評価する物差しとしてわかりやすいのが、左表の左表のような医師国家試験の合格率だ。慶応義塾大や自治医科大学のように安定して高い合格率を誇る大学がある一方、大きく変動する大学もある。大阪医科大の合格率は16年度に81・5%と大きく下がった。大槻学長は「原因は、自由な

校風で易きに流れたのか、勉強量が極端に減ったこと」と振り返る。国家試験対策として、予備校に頼る大学は増えている。医師国家試験の受験予備校最大手、メックの佐野倫代社長は「根性論ではなく、国家試験時に最大限の『解答力』を発揮する独自メソッドを確立した。全国の80大学がメックのVTR講義を受講し、講義の質の管理も評価され、国立大、私立大合計20大学以上で生講義も採用されている」と胸を張る。医学部生とて国家試験に合格しなければ医療行為はできない。特